

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
科学と人間生活	[理科]

科目目標
<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修単位	2単位
教科書	科学と人間生活(数研出版)
副教材	新課程 科学と人間生活 準拠 サポートノート(数研出版)

学期	考查	単元名(考查範囲)	学習活動	SDGs	評価の観点		
					①	②	③
1学期	期末考查	第4編 宇宙や地球の化学 2章 自然景観と自然災害 2章 自然景観と自然災害 第2編 生命の科学 1章 ヒトの生命現象	<ul style="list-style-type: none"> プレートと活火山、地震との関係性について学ぶ。 日本列島とプレートについて学ぶ。 遺伝子の本体としてのDNAについて学ぶ。 エネルギーと代謝の関係性とエネルギーの通貨としてはたらくATPについて学ぶ。 	15 陸の豊かさも守ろう 14 海の豊かさを守ろう	○	○	○
	課題考查	1学期の復習	<ul style="list-style-type: none"> 夏季課題より出題 		○	○	○
2学期	中間考查	1章 ヒトの生命現象 第3編 光や熱の科学 1章 光の性質とその利用	<ul style="list-style-type: none"> 血糖濃度の調節とホルモンのはたらきについて学ぶ。 光の性質、反射、全反射について学ぶ。 	3 すべての人に健康と福祉を	○	○	○
	期末考查	1章 光の性質とその利用	<ul style="list-style-type: none"> 光(電磁気)、波(波動)、音との関係性について学ぶ。 まとめ演習 	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	○	○	○
3学期	課題考查	2学期の復習	<ul style="list-style-type: none"> 冬季課題より出題 		○	○	○
	学年末考查	第1編 物質の科学 1章 材料とその再利用	<ul style="list-style-type: none"> 元素記号、結晶について学ぶ。 純物質、混合物、単体、化合物について学ぶ。 電子式・構造式・組成式について学ぶ。 		○	○	○
	※	※ 学年末考查が終了した後の授業内容 1年間の復習	<ul style="list-style-type: none"> 春季課題あり 新年度の課題考查の試験範囲になる場合もあり。 	13 気候変動に具体的な対策を	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 実験・観察時の様子，実験レポート，定期考査，単元テスト</p>	<p>人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し，見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに，ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより，総合的に判断し，それを表現することができる。</p> <p>【評価の対象】 実験・観察時の様子，実験レポート，定期考査，単元テスト</p>	<p>自然の事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度が養われている。</p> <p>自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。</p> <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度，実験・観察時の様子，実験レポート，宿題・課題，単元テスト</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

<p>【授業態度の評価】補足</p> <p>授業内容に則した積極的な質問・発表等は，評価の対象とします。</p> <p>【ノート・プリントの書き方】</p> <p>授業のたびにしっかり書き，常に整理しておきましょう。提出の直前にまとめ書きするようなことは絶対にしてはいけません。</p> <p>板書事項を写すだけでなく，自分で考えたり感じたりしたこと，疑問に思ったことなどについてのメモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり，質問したりすることで，より確かな知識となります。</p> <p>【実験について】</p> <p>実験については実験室で行います。実験をするときには事前に連絡をしますので，休み時間のうちに教室移動をし，指定された座席につき準備してください。</p> <p>実験レポート，宿題・課題などの提出物は必ず指定された期日を守り，指定された様式で提出してください。</p> <p>【勉強の進め方】</p> <p>日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解し，不足であれば先生に聞いて下さい。例題など自分で解いてみて，確認しましょう。</p> <p>問題集の該当箇所の問題も自分で解けるように学習を進めてください。もし分からないところがあれば，友達に聞いたり，先生に質問したりしてください。</p>
--

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
化学基礎	[理科]

科目目標
<p>自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

履修学科	普通科
履修学年	第2学年
履修単位	化学基礎 2単位
教科書	高等学校化学基礎 (第一学習社) 化基 711
副教材	化学基礎の基本マスター新訂版(啓林館)

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	評価の観点			
					①	②	③	
1学期	4	序章 化学と人間生活 第1章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素 第2節 原子の構造と元素の周期表	<ul style="list-style-type: none"> 化学とは何 探究の取組 物質の成分 構成元素 状態変化と熱運動 原子の構造 イオン 元素の周期表 周期律 		○	○	○	
	5	第3節 物質と化学結合	<ul style="list-style-type: none"> イオン結合 組成式 イオン結晶の性質と利用 共有結合の形成 	12つくる責任 つかう責任	○	○	○	
	6	第3節 物質と化学結合	<ul style="list-style-type: none"> 電子式 構造式 配位結合 錯イオン 分子の極性 分子間力 共有結合結晶と性質 		○	○	○	
	期末考査					○	○	○
	7	第3節 物質と化学結合	<ul style="list-style-type: none"> 自由電子・金属結合 金属の性質と利用 		○	○		
2学期	9	第II章 物質の変化 第1節 物質と化学変化	<ul style="list-style-type: none"> 相対質量 原子量・分子量・式量 物質質量 アボガドロ定数 		○	○		
	10	第1節 物質と化学変化	<ul style="list-style-type: none"> モル質量 モル体積 質量パーセント濃度 モル濃度 		○	○	○	
	中間考査					○	○	○
	11	第1節 物質と化学変化	<ul style="list-style-type: none"> 化学反応式 化学変化の量的関係 化学変化における法則 	9産業と技術 革新の基礎 をつくらう	○	○	○	
	期末考査					○	○	○
	12	第2節 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> 酸・塩基の定義 価数 電離度と強弱 水素イオン濃度とpH 指示薬 		○	○	○	
3学期	1	第2節 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> 中和 塩の分類と液性 中和滴定 		○	○	○	
	2	第2節 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> 中和の量的関係 中和滴定曲線 		○	○	○	
	学年末考査					○	○	○
	3	第3節 酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> 酸化と還元 酸化数 		○	○	○	

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む姿勢
<p>自然や人間生活と化学との関わりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている</p> <p>【評価の対象】 実験・観察活動への取組や態度、実験レポート、宿題課題、小テスト、定期考査</p>	<p>自然の人間生活の中の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・探究などを行うとともに、物事を実証的、論理的に考察したり分析したりすることにより、総合的に判断し、それを表現することができる。</p> <p>【評価の対象】 実験・観察活動への取組や態度、実験レポート、宿題課題、小テスト、定期考査</p>	<p>自然の事物や現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度が培かれている。</p> <p>自然の原理、法則や科学技術の発展と人間生活との関わりについて興味を持ち、社会発展の基盤となる化学への関心を高めている。</p> <p>【評価の対象】 学習活動への取組や態度、実験レポート、宿題課題</p>

担当者から（授業の受け方・勉強の仕方・成績のつけかた）

【授業態度の評価】

授業内容に即した積極的な質問、意見発表は、評価の対象とします。

【ノート・プリントの記入の仕方】

- 1 授業毎に要点をまとめ、整理するようにします。板書事項の書写だけではなく、自分で考え、疑問に思ったことなどもメモをとっておくとよいでしょう。授業後に調べ、質問することで、より深く理解でき、確かな知識となります。
- 2 計算問題については、計算立式や計算の過程を記しておくことによって、考え方の再確認や計算の誤りなどに気づきやすくなり、復習取り組みやすくなります。

【実験への取組について】

- 1 実験については化学実験室で行います。実験学習を行うときには、事前に連絡しますので、休み時間のうちに移動し、指定された座席で準備をしておいてください。
- 2 実験活動においては、加熱器具、ガラス器具、薬品の取り扱いなど危険が伴う場合があります。安全に実験を行うため、指導者の指示に必ず従ってください。
- 3 実験まとめ、レポートなどの提出物は必指定された期日中に、所定の様式によって提出してください。

【自学自習の進め方】

- 1 日々の授業を大切にすることが基本です。必ず復習を授業の内容を理解し、理解が不足していると思う内容は質問して解決するようにしましょう。教科書の例題や類題など問題演習にも取り組みましょう。
- 2 副教材問題集の該当箇所の問題解答も自ら進めてください。不明な問題は、解答解説を参照したり、質問したりして、主体的な学びの姿勢の確立に努めてください。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
化学基礎・化学	[理科]

科目目標
<p>自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

履修学科	普通科
履修学年	第2学年
履修単位	化学基礎2単位，化学1単位
教科書	改訂版 化学基礎（第一学習社） 化学（数研出版）
副教材	実践アクセス総合化学（浜島書店）

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
1学期	4	序章 化学と人間生活 第1章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素 第2節 原子の構造と元素の周期表	・化学とは何か ・探究の取組 ・物質の成分 ・構成元素 ・状態変化と熱運動 ・原子の構造 ・イオン ・元素の周期表 ・周期律 *SDGs …9産業と技術革新の基礎をつくろう	○	○	○
	5	第3節 物質と化学結合	・イオン式 ・イオン結合 ・組成式 ・電子式 ・構造式 ・共有結合 ・配位結合 ・分子間力 ・共有結合結晶 ・自由電子 ・金属結合 ・結晶の比較	○	○	○
	6	第2章 物質の変化 第1節 物質と化学変化	・相対質量 ・原子量・分子量・式量 ・アボガドロ数 ・溶液の濃度 ・化学反応式 ・化学変化の量的関係	○	○	○
	期末考査			○	○	○
	7	第2節 酸と塩基	・酸・塩基の性質 ・価数 ・強弱と電離度 ・水素イオン濃度とpH	○	○	○
2学期	9	第2節 酸と塩基	・中和 ・指示薬 ・中和の量的関係 ・塩の分類と液性 ・中和滴定曲線	○	○	○
	10	第3節 酸化還元反応	・酸化と還元 ・酸化数 ・酸化剤 ・還元剤	○	○	○
	中間考査			○	○	○
	11	第3節 酸化還元反応	・金属のイオン化傾向 ・電池 ・電気分解 ・ファラデーの法則	○	○	○
	12	第1編 物質の状態 第1章 粒子の結合と結晶 第2章 物質の状態変化	・結晶の種類 ・結晶の構造 ・単位格子 ・粒子の熱運動・三態変化 ・気液平衡と蒸気圧	○	○	○
3学期	1	第3章 気体	・ボイルの法則 ・シャルルの法則 ・ボイル・シャルルの法則 ・気体の状態方程式	○	○	○
	2	第4章 溶液 第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー	・溶解 ・希薄溶液の性質 ・コロイド ・化学反応と熱 ・化学反応と光 *SDGs …7エネルギーをみんなに	○	○	○
	学年末考査			○	○	○
	3	第2章 電池と電気分解	・電池 ・電気分解 ・ファラデーの法則	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む姿勢
<p>自然や人間生活と化学との関わりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている</p> <p>【評価の対象】 実験・観察活動への取組や態度、実験レポート、宿題課題、小テスト、定期考査</p>	<p>自然の人間生活の中の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・探究などを行うとともに、物事を実証的、論理的に考察したり分析したりすることにより、総合的に判断し、それを表現することができる。</p> <p>【評価の対象】 実験・観察活動への取組や態度、実験レポート、宿題課題、小テスト、定期考査</p>	<p>自然の事物や現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度が培われている。</p> <p>自然の原理、法則や科学技術の発展と人間生活との関わりについて興味を持ち、社会発展の基盤となる化学への関心を高めている。</p> <p>【評価の対象】 学習活動への取組や態度、実験レポート、宿題課題</p>

担当者から（授業の受け方・勉強の仕方・成績のつけかた）

【授業態度の評価】

授業内容に即した積極的な質問、意見発表は、評価の対象とします。

【ノート・プリントの記入の仕方】

- 1 授業毎に要点をまとめ、整理するようにします。板書事項の書写だけではなく、自分で考え、疑問に思ったことなどもメモをとっておくとよいでしょう。授業後に調べ、質問することでより深く理解でき、より確かな知識となります。
- 2 計算問題については、計算立式や計算の過程を記しておくことによって、考え方の再確認や計算の誤りなどに気づきやすくなり、復習へ取り組みやすくなります。

【実験への取組について】

- 1 実験については化学実験室で行います。実験学習を行うときには、事前に連絡しますので、休み時間のうちに移動し、指定された座席で準備をしておいてください。
- 2 実験活動においては、加熱器具、ガラス器具、薬品の取り扱いなど危険が伴う場合があります。安全に実験を行うため、指導者の指示に必ず従ってください。
- 3 実験まとめ、レポートなどの提出物は必指定された期日中に、所定の様式によって提出してください。

【自学自習の進め方】

- 1 日々の授業を大切にすることが基本です。必ず復習を授業の内容を理解し、理解が不足していると思う内容は質問して解決するようにしましょう。教科書の例題や類題など問題演習にも取り組みましょう。
- 2 副教材問題集の該当箇所の問題解答も自ら進めてください。不明な問題は、解答解説を参照したり、質問したりして、主体的な学びの姿勢の確立に努めてください。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
科学と人間生活	[理科]

履修学科	総合学科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	科学と人間生活(数研出版)
副教材	新課程 科学と人間生活 準拠 サポートノート(数研出版)

科目目標
<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

学期	考查	単元名(考查範囲)	学習活動	SDGs	評価の観点		
					①	②	③
1学期	期末考查	第4編 宇宙や地球の化学 2章 自然景観と自然災害 2章 自然景観と自然災害 第2編 生命の科学 1章 ヒトの生命現象	<ul style="list-style-type: none"> プレートと活火山、地震との関係性について学ぶ。 日本列島とプレートについて学ぶ。 遺伝子の本体としてのDNAについて学ぶ。 エネルギーと代謝の関係性とエネルギーの通貨としてはたらくATPについて学ぶ。 	15 陸の豊かさを守ろう 14 海の豊かさを守ろう	○	○	○
	課題考查	1学期の復習	<ul style="list-style-type: none"> 夏季課題より出題 		○	○	○
2学期	中間考查	1章 ヒトの生命現象 第3編 光や熱の科学 1章 光の性質とその利用	<ul style="list-style-type: none"> 血糖濃度の調節とホルモンのはたらきについて学ぶ。 光の性質、反射、全反射について学ぶ。 	3 すべての人に健康と福祉を	○	○	○
	期末考查	1章 光の性質とその利用	<ul style="list-style-type: none"> 光(電磁気)、波(波動)、音との関係性について学ぶ。 	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	○	○	○
	課題考查	2学期の復習	<ul style="list-style-type: none"> 冬季課題より出題 		○	○	○
3学期	学年末考查	第1編 物質の科学 1章 材料とその再利用	<ul style="list-style-type: none"> 元素記号、結晶について学ぶ。 純物質、混合物、単体、化合物について学ぶ。 電子式・構造式・組成式について学ぶ。 		○	○	○
	※	※ 学年末考查が終了した後の授業内容 1年間の復習	<ul style="list-style-type: none"> 春季課題あり 新年度の課題考查の試験範囲になる場合もあり。 	13 気候変動に具体的な対策を	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 実験・観察時の様子，実験レポート，定期考査，単元テスト</p>	<p>人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し，見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに，ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより，総合的に判断し，それを表現することができる。</p> <p>【評価の対象】 実験・観察時の様子，実験レポート，定期考査，単元テスト</p>	<p>自然の事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度が養われている。</p> <p>自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。</p> <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度，実験・観察時の様子，実験レポート，宿題・課題，単元テスト</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

<p>【授業態度の評価】補足</p> <p>授業内容に則した積極的な質問・発表等は，評価の対象とします。</p> <p>【ノート・プリントの書き方】</p> <p>授業のたびにしっかり書き，常に整理しておきましょう。提出の直前にまとめ書きするようなことは絶対にしてはいけません。</p> <p>板書事項を写すだけでなく，自分で考えたり感じたりしたこと，疑問に思ったことなどについてのメモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり，質問したりすることで，より確かな知識となります。</p> <p>【実験について】</p> <p>実験については実験室で行います。実験をするときには事前に連絡をしますので，休み時間のうちに教室移動をし，指定された座席につき準備してください。</p> <p>実験レポート，宿題・課題などの提出物は必ず指定された期日を守り，指定された様式で提出してください。</p> <p>【勉強の進め方】</p> <p>日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解し，不足であれば先生に聞いて下さい。例題など自分で解いてみて，確認しましょう。</p> <p>問題集の該当箇所の問題も自分で解けるように学習を進めてください。もし分からないところがあれば，友達に聞いたり，先生に質問したりしてください。</p>
--

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
生物基礎	[理科]

科目目標
<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見直しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

履修学科	普通科（文系コース）
履修学年	第2学年
履修単位	生物基礎2単位
教科書	生物基礎（実教出版）
副教材	生物基礎研究ノート／エブリイノート

	考査	単元名（考査範囲）	学習活動	SDG's	評価の観点		
					①	②	③
1学期	期末考査	生物基礎 1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 2節 生物とエネルギー 2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA	「生物の多様性と共通性」「細胞」「顕微鏡の使い方と細胞の観察」「マイクロメーターの使い方」「エネルギーと代謝」「代謝にかかわる酵素」「光合成と呼吸」「生命活動とエネルギー」「DNAの構造」「DNAの複製と分配」	2 飢餓をゼロに 3 すべての人に健康と福祉を 16 平和と公正をすべての人に	○	○	○
	課題考査	夏休みの課題（生物基礎研究ノート）	※1学期の学習範囲の復習 ※考査の日に課題を回収します				○
2学期	中間考査	2節 遺伝情報とタンパク質の合成 3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境	「遺伝情報とタンパク質の合成」「遺伝子の発現」「ゲノム」「体内環境と恒常性」「体液の調節」「自律神経系による情報伝達と調節」「内分泌系による情報伝達と調節」「内分泌系と自律神経系による調節」	3 すべての人に健康と福祉を 16 平和と公正をすべての人に	○	○	○
	期末考査	2節 体内環境の維持のしくみ	「体液の調節」「自律神経系による情報伝達と調節」「内分泌系による情報伝達と調節」「内分泌系と自律神経系による調節」	3 すべての人に健康と福祉を	○	○	○
	課題考査	冬休みの課題（生物基礎研究ノート）	※2学期の学習範囲の復習 ※考査の日に課題を回収します				○
3学期	学年末考査	3節 免疫	「生体防御と免疫」「自然免疫」「獲得免疫」「免疫と疾患」	3 すべての人に健康と福祉を	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 実験・観察時の様子，実験レポート，単元テスト，定期考査</p>	<p>人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し，見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに，ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより，総合的に判断し，それを表現することができる。</p> <p>【評価の対象】 実験・観察時の様子，実験レポート，単元テスト，定期考査</p>	<p>自然の事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度が養われている。</p> <p>自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。</p> <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度，実験・観察時の様子，実験レポート，宿題・課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
<p>【授業態度の評価】 補足</p> <p>授業内容に則した積極的な質問・発表等は，評価の対象とします。</p> <p>【ノート・プリントの書き方】</p> <p>授業のたびにしっかり書き，常に整理しておきましょう。提出の直前にまとめ書きするようなことは絶対にしてはいけません。</p> <p>板書事項を写すだけでなく，自分で考えたり感じたりしたこと，疑問に思ったことなどについてのメモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり，質問したりすることで，より確かな知識となります。</p> <p>【実験について】</p> <p>実験については実験室で行います。実験をするときには事前に連絡をしますので，休み時間のうちに教室移動をし，指定された座席につき準備してください。</p> <p>実験レポート，宿題・課題などの提出物は必ず指定された期日を守り，指定された様式で提出してください。</p> <p>【勉強の進め方】</p> <p>日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解し，不足であれば先生に聞いて下さい。例題など自分で解いてみて，確認しましょう。</p> <p>問題集の該当箇所の問題も自分で解けるように学習を進めてください。もし分からないところがあれば，友達に聞いたり，先生に質問したりしてください。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
生物基礎・生物	[理科]

科目目標
<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

履修学科	普通科（理系コース）
履修学年	第2学年
履修単位	生物基礎2単位／生物2単位
教科書	生物基礎（実教出版） ／生物（実教出版）
副教材	生物基礎研究ノート／生物研究ノート／エブリイノート

	考査	単元名（考査範囲）	学習活動	SDG's	評価の観点		
					①	②	③
1学期	期末考査	生物基礎 1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 2節 生物とエネルギー 2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA 2節 遺伝情報とタンパク質の合成 3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境 2節 体内環境の維持のしくみ	「生物の多様性と共通性」「細胞」「顕微鏡の使い方と細胞の観察」「マイクロメーターの使い方」「エネルギーと代謝」「代謝にかかわる酵素」「光合成と呼吸」「生命活動とエネルギー」「DNAの構造」「DNAの複製と分配」「遺伝情報とタンパク質の合成」「遺伝子の発現」「ゲノム」「体内環境と恒常性」「体液の調節」「自律神経系による情報伝達と調節」「内分泌系による情報伝達と調節」「内分泌系と自律神経系による調節」	3 すべての人に健康と福祉を 16 平和と公正をすべての人に	○	○	○
	課題考査	夏休みの課題 （生物基礎研究ノート）	※1学期の学習範囲の復習 ※考査の日に課題を回収します				○
	中間考査	3節 免疫 4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移 2節 植生とバイオーム 3節 生態系と生物の多様性 4節 生態系のバランスと保全	「生体防御と免疫」「自然免疫」「獲得免疫」「免疫と疾患」「生態系」「植生の変化」「遷移」「世界のバイオーム」「日本のバイオーム」「生物の多様性」「生物どうしのつながり」「生物多様性への影響と生態系の保全」	13 気候変動に具体的な対策 14 海の豊かさを守る 15 陸の豊かさを守る	○	○	○
2学期	期末考査	生物 1章 生物の進化 1節 生物の起源と細胞の進化 2節 遺伝子の変化と進化のしくみ 3節 生物の系統と進化	「化学進化と生物誕生」「細胞内共生説」「遺伝子の変化」「遺伝子の組み合わせの変化」「進化のしくみ」「種形成」「系統と進化」「分子系統樹」「人類の系統と進化」「霊長類」「人類の特徴」「人類の進化」	14 海の豊かさを守る 15 陸の豊かさを守る	○	○	○
	課題考査	冬休みの課題 （生物基礎研究ノート）	※2学期の学習範囲の復習 ※考査の日に課題を回収します				○
	学年末考査	2章 生命現象と物質 1節 細胞と分子 2節 生命現象とタンパク質	「細胞を構成する物質」「生体膜の働きと細胞」「細胞小器官」「細胞骨格」「細胞接着」「タンパク質の構造」「酵素」「酵素反応の調節」「チャンネル・ポンプ・受容体」「代謝」「ATP」「呼吸と発酵」「光合成」	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 3 すべての人に健康と福祉を	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 実験・観察時の様子，実験レポート，単元テスト，定期考査</p>	<p>人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し，見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに，ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより，総合的に判断し，それを表現することができる。</p> <p>【評価の対象】 実験・観察時の様子，実験レポート，単元テスト，定期考査</p>	<p>自然の事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度が養われている。</p> <p>自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。</p> <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度，実験・観察時の様子，実験レポート，宿題・課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
<p>【授業態度の評価】 補足</p> <p>授業内容に則した積極的な質問・発表等は，評価の対象とします。</p> <p>【ノート・プリントの書き方】</p> <p>授業のたびにしっかり書き，常に整理しておきましょう。提出の直前にまとめ書きするようなことは絶対にしてはいけません。</p> <p>板書事項を写すだけでなく，自分で考えたり感じたりしたこと，疑問に思ったことなどについてのメモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり，質問したりすることで，より確かな知識となります。</p> <p>【実験について】</p> <p>実験については実験室で行います。実験をするときには事前に連絡をしますので，休み時間のうちに教室移動をし，指定された座席につき準備してください。</p> <p>実験レポート，宿題・課題などの提出物は必ず指定された期日を守り，指定された様式で提出してください。</p> <p>【勉強の進め方】</p> <p>日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解し，不足であれば先生に聞いて下さい。例題など自分で解いてみて，確認しましょう。</p> <p>問題集の該当箇所の問題も自分で解けるように学習を進めてください。もし分からないところがあれば，友達に聞いたり，先生に質問したりしてください。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
物理基礎・物理	[理科]

科目目標
<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見直しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

履修学科	普通科（理系コース）
履修学年	第2学年
履修単位	物理基礎2単位，物理2単位
教科書	高等学校 改訂 物理（第一学習社）
副教材	物理基礎研究ノート（博洋社） 物理研究ノート（博洋社） セミナー 物理基礎＋物理（第一学習社）

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習内容	SDGs	評価の観点		
					①	②	③
1学期	期末考査	<u>物理基礎</u> 第I章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動 第2節 力と運動の法則 第3節 仕事と力学的エネルギー 第II章 熱 第1節 熱とエネルギー 第III章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波	<ul style="list-style-type: none"> 速さ 相対速度 鉛直，水平投射 仕事の原理と仕事率 力学的エネルギー 等速直線運動 加速度 摩擦係数 熱と熱平衡 物質の三態 熱量の保存 波の表し方，縦波，横波，定常波 弦，気柱の固有振動 	12 つくる責任つかう責任	○	○	○
	課題考査	1学期の復習	夏期休業課題より出題		○	○	○
2学期	中間考査	第IV章 電気 第1節 電荷と電流 第2節 電流と磁場 第3節 エネルギーとその利用 <u>物理</u> 第I章 運動とエネルギー 第1節 平面運動と放物運動 第2節 剛体のつりあい 第3節 運動量の保存	<ul style="list-style-type: none"> 電流と電気抵抗，抵抗率 磁場，電磁波 原子核と放射線 原子力とその利用 平面運動 剛体にはたらく力とその合力 剛体の重心とつりあい 運動量と力積 運動量保存の法則 放物運動 反発係数 	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	○	○	○
	期末考査	第4節 円運動と単振動 第5節 気体の性質と分子の運動 第II章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波	<ul style="list-style-type: none"> 円運動 単振動 気体の法則 気体の内部エネルギーと仕事 慣性力と遠心力 万有引力 正弦波 音の伝わり方 波の伝わり方 ドップラー効果 		○	○	○
	課題考査	2学期の復習	冬期休業課題より出題		○	○	○
3学期	学年末考査	第3節 光波 第III章 電気と磁気 第1節 電場と電位	<ul style="list-style-type: none"> 光の性質 光の回折と干渉 静電気力 コンデンサー レンズと鏡 電位，電場 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	○	○	○
	※	第2節 電流	<ul style="list-style-type: none"> 電流と抵抗 半導体 直流回路 	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、知識を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 定期考査，実験レポート，宿題・課題，単元テスト</p>	<p>自然の事物・現象の中に問題を見出し，探究する過程を通して，事象を実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより，総合的に判断し，それを表現することができる。</p> <p>【評価の対象】 実験レポート，宿題・課題，定期考査，実験・観察時の様子 単元テスト</p>	<p>自然の事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度が養われている。</p> <p>自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。</p> <p>【評価の対象】 宿題・課題，実験レポート，学習活動への参加の仕方や態度 単元テスト</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

【授業態度の評価】補足

授業内容に則した積極的な質問・発表等は，評価の対象とします。

【ノート・プリントの書き方】

授業のたびにしっかり書き，常に整理しておきましょう。提出の直前にまとめ書きするようなことは絶対にしてはいけません。

板書事項を写すだけでなく，自分で考えたり感じたりしたこと，疑問に思ったことなどについてのメモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり，質問したりすることで，より確かな知識となります。

【実験について】

実験については実験室で行います。実験をするときには事前に連絡をしますので，休み時間のうちに教室移動をし，指定された座席につき準備してください。

実験レポート，宿題・課題などの提出物は必ず指定された期日を守り，指定された様式で提出してください。

【勉強の進め方】

日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解し，不足であれば先生に聞いて下さい。例題など自分で解いてみて，確認しましょう。

問題集の該当箇所の問題も自分で解けるように学習を進めてください。もし分からないところがあれば，友達に聞いたり，先生に質問したりしてください。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
化 学	[理科]

科目目標
<p>自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	4単位
教科書	改訂版化学（数研出版）化学 313
副教材	実践アクセス総合化学（浜島書店）

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点				
				①	②	③	④	
1 学期	4	第2編 物質の変化 第3章 化学反応の速さとしくみ 第4章 化学平衡	<ul style="list-style-type: none"> 化学反応の速さ 化学反応のしくみ 可逆反応と化学平衡 電解質水溶液の化学平衡 ・反応条件と反応速度 ・平衡状態の変化		○	○	○	
	5	第3編 無機物質 第1章 非金属元素	<ul style="list-style-type: none"> 元素の分類と周期表 炭素・ケイ素 ・水素 ・希ガス元素 ・ハロゲン元素 ・酸素・硫黄 ・窒素・リン	○	○	○	○	
	6	第2章 金属元素(I) 第3章 金属元素(II)	<ul style="list-style-type: none"> アルカリ金属元素 アルミニウム・亜鉛 遷移元素の特徴 クロム ・2族元素 ・スズ・鉛 ・鉄 ・銅 ・金・銀 ・マンガン ・金属イオンの分離	○	○	○	○	
	期末考査				○	○	○	○
	7	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族炭化水素	<ul style="list-style-type: none"> 有機化合物の特徴と分類 飽和炭化水素 ・有機化合物の分析 ・不飽和炭化水素	○	○	○	○	
2 学期	9	第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合物	<ul style="list-style-type: none"> アルコールとエーテル 芳香族炭化水素 ・アルデヒドとケトン ・脂肪族カルボン酸と酸無水物 ・エステルと油脂 ・フェノール類 ・芳香族カルボン酸・芳香族アミンとアゾ化合物 ・有機化合物の分離	○	○	○	○	
	10	第5編 天然有機化合物 第1章 天然有機化合物 第2章 天然高分子化合物	<ul style="list-style-type: none"> 天然有機化合物の種類 多糖類 ・単糖類 ・二糖類 ・アミノ酸 ・タンパク質・核酸	○	○	○	○	
	中間考査				○	○	○	○
	11	第6編 合成高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 合成高分子化合物	<ul style="list-style-type: none"> 高分子化合物の構造と性質 高分子化合物と人間生活 ・合成繊維 ・合成樹脂 ・天然ゴムと合成ゴム	○	○	○	○	
	期末考査				○	○	○	○

	12		化学基礎・化学の総復習	○	○	○	○
3 学 期	1		↓	○	○	○	○
	卒業考査			○	○	○	○

評価の観点 ①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③実験・観察の技能 ④知識・理解

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組む際に何を意識するべきか）			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
<p>自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的に授業に参加して取り組んでいるか。 実験に主体的に取り組んでいるか。</p> <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、実験レポート、宿題・課題</p>	<p>教師からの発問に対して自らの考えで実証的、論理的に答えているか。 客観的な事実に基づいて現象を科学的に判断することができるか。 自らの考えを的確に表現することができたか。</p> <p>【評価の対象】 実験レポート、宿題・課題、定期考査</p>	<p>実験の方法を理解し、実験器具の正しい使い方を身に付けたか。 自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身に付けたか。 実験の中で問題を見出し、取り組んでいるか。</p> <p>【評価の対象】 実験・観察時の様子、実験レポート、定期考査</p>	<p>実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。</p> <p>【評価の対象】 定期考査、実験レポート、宿題・課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
<p>【約束事】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 課題や考査の訂正など期限のあるものは必ず期限内に提出すること。 2 理解することを前提とした授業や課題への取組を行うこと。 <p>【勉強の仕方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 重要語句や化学法即等の基礎的事項を確実に理解し、基本問題の演習に努力すること。 2 課題や訂正などに取り組む際には、計算問題については必ず計算の過程を残しておくこと。そのことにより間違った場所や考え方の誤りに気づき、学習課題の克服が可能になります。 3 すべての問題を自力で行うのが理想であるが、どうしても分からない場合は、他者に質問して理解を支援してもらいましょう。その後、類題を自ら解き、自己の理解度を確認すること。 4 解答・解説の丸写しに終わらないこと。 5 授業に集中して取り組み、法則の理解学習や問題演習、実験を通して、化学的に思考し、表現する態度を培い、知識・技能を錬磨できるよう継続して努めること。 <p>【成績】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 真摯に授業中に取り組むことにより、学習の習得が確実なものとなります。 2 理解が滞るときには、自主的に質問をしてください。個別に対応し、指導を行います。 3 各種課題や実験レポートの提出なども主体的に学ぶ態度、思考・表現、知識・技能の評価のための重要な資料とします。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
化学基礎	[理科]

科目目標
<p>自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	1単位
教科書	改訂版 化学基礎 (数研出版) 化基 319
副教材	改訂版化学基礎の基本マスター (啓林館)

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	評価の観点			
					①	②	③	④
1学期	4	第2編 物質の変化 第3章 酸化還元反応	・酸化数	9産業と技術革新の基礎をつくらう	○	○	○	○
	5	第3章 酸化還元反応	・酸化剤と還元剤とのはたらき		○	○	○	○
	6	第3章 酸化還元反応	・酸化剤と還元剤の反応の例		○	○	○	○
	期末考査				○	○	○	○
	7	第3章 酸化還元反応	・酸化還元反応の量的関係		○	○		○
2学期	9	第3章 酸化還元反応	・金属のイオン化傾向	12つくる責任 つかう責任	○	○	○	○
	10	第3章 酸化還元反応	・イオン化傾向と金属の反応性		○	○	○	○
	中間考査				○	○	○	○
	11	第3章 酸化還元反応	・酸化還元反応の利用	7 エネルギーをみんなに	○	○	○	○
	期末考査				○	○	○	○
3学期	12		化学基礎の総復習		○	○	○	○
	1		↓		○	○	○	○
卒業考査					○	○	○	○

評価の観点 ①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③実験・観察の技能 ④知識・理解

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
<p>自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的に授業に参加して取り組んでいるか。 実験に主体的に取り組んでいるか。</p> <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、実験レポート、宿題・課題</p>	<p>教師からの発問に対して自らの考えで実証的、論理的に答えているか。 客観的な事実に基づいて現象を科学的に判断することができるか。 自らの考えを的確に表現することができたか。</p> <p>【評価の対象】 実験レポート、宿題・課題、定期考査</p>	<p>実験の方法を理解し、実験器具の正しい使い方を身に付けたか。 自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身に付けたか。 実験の中で問題を見出し、取り組んでいるか。</p> <p>【評価の対象】 実験・観察時の様子、実験レポート、定期考査</p>	<p>実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。</p> <p>【評価の対象】 定期考査、実験レポート、宿題・課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

【授業プリント】

- 1 授業プリントはファイルに綴じ、空欄や重要語句等を記入しながら、学習を進めていくこと。
- 2 いつでも提出できるように整理しておくこと。

【授業】

- 1 分からないところは、質問をするなど、積極的に課題解決に臨む姿勢を確立しよう。
- 2 演習問題に積極的に取り組み、理解に努めること。

【課題・訂正】

- 1 課題や訂正は、必ず期限内に提出すること。

【成績】

- 1 真摯に授業中に取り組むことにより、学習の習得が確実なものとなります。
- 2 理解が難しいときには、自主的に質問をしてください。個別に対応し、指導を行います。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
生物	[理科]

科目目標
<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	文系4単位
教科書	スタンダード生物 (東京書籍)
副教材	ニューサポート スタンダード生物 (東京書籍)

学期	考査	単元名 (考査範囲)	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
1学期	期末考査	1編 生命現象と物質 1章 生体物質と細胞 2章 生命現象を支えるタンパク質 3章 代謝とエネルギー	「細胞」「細胞小器官」「生体膜」「細胞骨格」「生命現象とタンパク質」「タンパク質の構造」「タンパク質と物質輸送・情報伝達・細胞運動・免疫・酵素」「エネルギー変化」「呼吸」「光合成」「化学合成」「窒素同化」「遺伝情報の流れ」「DNAの複製」「遺伝情報の転写・翻訳・変化」「転写開始の調節」 *SDGs 2 飢餓をゼロに	○	○	○	○
		2編 遺伝子のはたらき 1章 DNAの構造と複製 2章 遺伝情報の発現 3章 遺伝子の発現調節 4章 バイオテクノロジー	「目的の遺伝子を増やす」「遺伝子の情報を読む」「遺伝子を細胞に導入する」「有性生殖」「減数分裂によってもたらされる遺伝的多様性」「動物の配偶子形成」「受精」「動物の初期発生の概略」「カエルの発生」「ウニの発生」「形成体と誘導」「誘導の連鎖」 *SDGs 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	○	○	○	○
		3編 生殖と発生 1章 多様な個体が生じる有性生殖 2章 動物の発生	「動物の発生とホックス遺伝子」「被子植物の生殖」「被子植物の器官分化」「刺激の受容から反応への情報の流れ」「ニューロンの性質と興奮のしくみ」「刺激の受容のしくみ」「中枢神経での情報処理」「効果器としての骨格筋のはたらき」「動物の行動の例」	○	○	○	○
	課題考査	3章 動物の発生のしくみ 4章 植物の発生	「動物の発生とホックス遺伝子」「被子植物の生殖」「被子植物の器官分化」「刺激の受容から反応への情報の流れ」「ニューロンの性質と興奮のしくみ」「刺激の受容のしくみ」「中枢神経での情報処理」「効果器としての骨格筋のはたらき」「動物の行動の例」	○	○		○
		4編 生物の環境応答 1章 動物の刺激の受容と反応 2章 動物の行動	「動物の発生とホックス遺伝子」「被子植物の生殖」「被子植物の器官分化」「刺激の受容から反応への情報の流れ」「ニューロンの性質と興奮のしくみ」「刺激の受容のしくみ」「中枢神経での情報処理」「効果器としての骨格筋のはたらき」「動物の行動の例」	○	○		○
		3章 植物の環境応答 5編 生態と環境 1章 生物の多様性と生態学 2章 個体群と生物群集	「環境に応じた植物の一生と植物ホルモン」「発芽の調節」「気孔の開閉の調節」「花芽形成の調節」「老化と落葉」「ストレスに対する応答」「老化と落葉」「個体群と環境」「個体群の構造と成長」「個体間の相互作用」「種間の相互作用」「生物群集の成り立ちと多種の共存」「食物網と物質生産」「生態系の構造とエネルギーの流れ」「生物多様性とその意味」「生物多様性を減少させる要因」 *SDGs 15 陸の豊かさを守ろう	○	○		○
2学期	中間考査	3章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ 4章 生態系と生物多様性	「環境に応じた植物の一生と植物ホルモン」「発芽の調節」「気孔の開閉の調節」「花芽形成の調節」「老化と落葉」「ストレスに対する応答」「老化と落葉」「個体群と環境」「個体群の構造と成長」「個体間の相互作用」「種間の相互作用」「生物群集の成り立ちと多種の共存」「食物網と物質生産」「生態系の構造とエネルギーの流れ」「生物多様性とその意味」「生物多様性を減少させる要因」 *SDGs 15 陸の豊かさを守ろう	○	○		○
	考査 期末	第6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の変遷 2章 進化のしくみ	「生命の起源」「生物の変遷」「人類の変遷」「進化とは」「生物の個体間の変異とその起源」「遺伝子頻度とその変化のしくみ」「種分化」「共進化」	○	○		○
3学期	卒業考査	3章 生物の系統	「生物の系統」「生物の世界の3ドメイン」「生物の系統のまとめ」 *SDGs 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさを守ろう	○	○		○

評価の観点 ①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③実験・観察の技能 ④知識・理解

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	実験・観察の技能	知識・理解
<p>学習内容に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方 や態度、実験レポート、 宿題・課題</p>	<p>学習内容の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。</p> <p>【評価の対象】 実験レポート、宿題・課題、 定期考査</p>	<p>実験器具などの基本操作を習得するとともに、観察過程や結果を的確に記録、整理し、生体の構造・現象・原理を科学的に探究する技能を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 実験・観察時の様子、実験レポート、定期考査</p>	<p>学習した内容における基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 定期考査、実験レポート、 宿題・課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・自宅学習の仕方・成績のつけかた）
<p>【授業態度の評価】 補足</p> <p>寝ていたら起こします。何度も起こすのに起きない場合は授業に参加する意思がないものとみなして減点します。</p> <p>同様に、私語についての指導を何回も受けた場合も減点の対象とします。</p> <p>逆に、授業内容に則した積極的な質問や発表は加点の対象とします。</p> <p>【授業プリントの書き方】</p> <p>授業のたびにしっかり書いたものを平常点に加点します。授業プリントは、各定期考査前後で確認をします。</p> <p>板書事項を写すだけでなく、自分で考えたり感じたりしたこと、疑問に思ったことなどについてのメモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり、質問したりすることで、より確かな知識となります。</p> <p>【学習の進め方】</p> <p>覚える内容が多い科目なので、日々の授業の復習が大切です。授業のあった日に、授業内容を思い出しながら教科書を音読することが効果的です。必ず復習をして授業の内容を理解し、不足であれば教科担任に聞いてください。また、内容を丸覚えするのではなく、「なぜそうなるのか？」を常に考えながら学び、ときには図を描くことで記憶しやすくなります。例題などは自分で解いてみて、確認しましょう。現代文の評論を学習することも問題の把握のために必要なことであります。</p> <p>問題集の該当箇所の問題も自分で解けるように学習を進めてください。もし分からないところがあれば質問しましょう。</p> <p>【受験で生物が必要なみなさんへ】</p> <p>自分で計画を立てて学習できることが理想的ですが、なかなかうまくいかないときは添削という手段を用いて学習を進めるのもアリだと思います。問題を解くために必要なものは、まず「知識」です。生物用語を覚えることから始めましょう。そして、他の人に説明した内容をわかってもらえれば、自身がよく理解していると言い換えることができます。「やらない」のはいつでもできますから、目標を高く設定して取り組んでみましょう。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
生物	[理科]

科目目標
<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	理系3単位
教科書	スタンダード生物(東京書籍)
副教材	ニューサポートスタンダード生物(東京書籍) 生物研究ノート(博洋社)

学期	考査	単元名(考査範囲)	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
1学期	考査 課題	3編 生殖と発生 3章 動物の発生のしくみ 4章 発生をつかさどる遺伝子 5章 植物の発生	2年次の学習内容の復習(セミナー、研究ノート)	○	○		○
	中間考査	4編 生物の環境応答 1章 動物の刺激の受容と反応	「刺激の受容から反応への情報の流れ」「ニューロンの性質と興奮のしくみ」「刺激の受容のしくみ」「中枢神経での情報処理」	○	○	○	○
	期末考査	2章 動物の行動	「効果器としての骨格筋のはたらき」「動物の行動をめぐる4つの“なぜ”」「動物の行動の例」 *SDGs 3 すべての人に健康と福祉を	○	○	○	○
	課題考査	5章 植物の発生 4編 生物の環境応答 1章 動物の刺激の受容と反応 2章 動物の行動 3章 植物の環境応答	「環境に応じた植物の一生と植物ホルモン」「発芽の調節」「栄養成長の調節」「気孔の開閉の調節」「花芽形成の調節」「老化と落葉」「ストレスに対する応答」「老化と落葉」	○	○	○	○
2学期	中間考査	5編 生態と環境 1章 生物の多様性と生態学 2章 個体群と生物群集 3章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ	「生物の多様性の現状」「個体群と環境」「個体群の構造と成長」「個体間の相互作用」「種間の相互作用」「生物群集の成り立ちと多種の共存」「食物網と物質生産」「生態系の構造とエネルギーの流れ」 *SDGs 15陸の豊かさを守ろう	○	○		○
	考査 期末	4章 生態系と生物多様性 6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の変遷 2章 進化のしくみ	「生物多様性とその意味」「生物多様性を減少させる要因」「生命の起源」「生物の変遷」「人類の変遷」「進化とは」「生物の個体間の変異とその起源」「遺伝子頻度とその変化のしくみ」「種分化」「共進化」 *SDGs 12 つくる責任つかう責任	○	○		○
	卒業考査	3章 生物の系統	「生物の系統」「生物の世界の3ドメイン」「生物の系統のまとめ」 *SDGs 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさを守ろう	○	○		○
3学期	※	※受験対策	・生物基礎・生物の各分野のまとめ	○	○		○

評価の観点 ①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③実験・観察の技能 ④知識・理解

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	実験・観察の技能	知識・理解
<p>学習内容に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方 や態度、実験レポート、 宿題・課題</p>	<p>学習内容の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。</p> <p>【評価の対象】 実験レポート、宿題・課題、 定期考査</p>	<p>実験器具などの基本操作を習得するとともに、観察過程や結果を的確に記録、整理し、生体の構造・現象・原理を科学的に探究する技能を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 実験・観察時の様子、実験レポート、定期考査</p>	<p>学習した内容における基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 定期考査、実験レポート、 宿題・課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・自宅学習の仕方・成績のつけかた）
<p>【授業態度の評価】 補足</p> <p>寝ていたら起こします。何度も起こすのに起きない場合は授業に参加する意思がないものとみなして減点します。</p> <p>同様に、私語についての指導を何回も受けた場合も減点の対象とします。</p> <p>逆に、授業内容に則した積極的な質問や発表は加点の対象とします。</p> <p>【授業プリントの書き方】</p> <p>授業のたびにしっかり書いたものを平常点に加点します。授業プリントは、各定期考査前後で確認をします。</p> <p>板書事項を写すだけでなく、自分で考えたり感じたりしたこと、疑問に思ったことなどについてのメモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり、質問したりすることで、より確かな知識となります。</p> <p>【学習の進め方】</p> <p>覚える内容が多い科目なので、日々の授業の復習が大切です。授業のあった日に、授業内容を思い出しながら教科書を音読することが効果的です。必ず復習をして授業の内容を理解し、不足であれば教科担任に聞いてください。また、内容を丸覚えするのではなく、「なぜそうなるのか？」を常に考えながら学び、ときには図を描くことで記憶しやすくなります。例題などは自分で解いてみて、確認しましょう。現代文の評論を学習することも問題の把握のために必要なことであります。</p> <p>問題集の該当箇所の問題も自分で解けるように学習を進めてください。もし分からないところがあれば質問しましょう。</p> <p>【受験で生物が必要なみなさんへ】</p> <p>自分で計画を立てて学習できることが理想的ですが、なかなかうまくいかないときは添削という手段を用いて学習を進めるのもアリだと思います。問題を解くために必要なものは、まず「知識」です。生物用語を覚えることから始めましょう。そして、他の人に説明した内容をわかってもらえれば、自身がよく理解していると言い換えることができます。「やらない」のはいつでもできますから、目標を高く設定して取り組んでみましょう。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
物理	[理科]

科目目標
<p>自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	物理3単位
教科書	高等学校 改訂 物理 (第一学習社)
副教材	物理研究ノート (博洋社) セミナー 物理基礎+物理 (第一学習社)

学期	考査	単元名 (考査範囲)	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
1学期	期末考査	2年次の復習 第Ⅲ章 電気と磁気 第3節 電流と磁場 第4節 電磁誘導と交流	春期課題より出題 ・ 磁場 ・ 電流が磁場から受ける力 ・ ローレンツ力 ・ 電磁誘導 ・ 交流 ・ 電磁波 *SDGs 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	○	○	○	○
	課題考査	1学期の復習	夏期休業課題から出題	○	○	○	○
2学期	中間考査	第Ⅴ章 原子 第1節 電子と光	・ 電子 ・ 光の粒子性 ・ X線 ・ 粒子の波動性	○	○	○	○
	期末考査	第2節 原子と原子核	・ 原子の構造 ・ 原子核と放射線 ・ 核反応とエネルギー ・ 素粒子と宇宙 *SDGs 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	○	○	○	○
3学期	卒業考査	※ 復習 ※ 受験対策	問題集より出題				

評価の観点 ①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③技能・表現 ④知識・理解

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、実験レポート、宿題・課題</p>	<p>自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。</p> <p>【評価の対象】 実験レポート、宿題・課題、定期考査</p>	<p>観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 実験・観察時の様子、実験レポート、定期考査</p>	<p>自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 定期考査、実験レポート、宿題・課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

【授業態度の評価】補足

授業内容に則した積極的な質問・発表等は、評価の対象とします。

【ノート・プリントの書き方】

授業のたびにしっかり書き、常に整理しておきましょう。提出の直前にまとめ書きするようなことは絶対にしてはいけません。

板書事項を写すだけでなく、自分で考えたり感じたりしたこと、疑問に思ったことなどについてのメモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり、質問したりすることで、より確かな知識となります。

【実験について】

実験については実験室で行います。実験をするときには事前に連絡をしますので、休み時間のうちに教室移動をし、指定された座席につき準備してください。

実験レポート、宿題・課題などの提出物は必ず指定された期日を守り、指定された様式で提出してください。

【勉強の進め方】

日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解し、不足であれば先生に聞いて下さい。例題など自分で解いてみて、確認しましょう。

問題集の該当箇所の問題も自分で解けるように学習を進めてください。もし分からないところがあれば、友達に聞いたり、先生に質問したりしてください。

【成績の出し方】

① 考査点 80 点（中間と期末） + ② 平常点 20 点（課題考査・出席・課題提出・授業態度など）

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
物理基礎	[理科]

科目目標
<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

履修学科	総合学科
履修学年	第3学年
履修単位	物理基礎2単位
教科書	高等学校 改訂 新物理基礎 (第一学習社)
副教材	高校物理サブノート 改訂版 (実教出版)

学期	考查	単元名 (考查範囲)	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
1 学期	期末 考查	序章 物理量の測定と扱い方 第1章 力と運動 第1節 物体の運動 第2節 力と運動の法則	<ul style="list-style-type: none"> 物理量, 数値, 数式のそれぞれの表し方 誤差と有効数字 速さと等速直線運動 速度の合成・相対速度 等加速度直線運動 重力加速度と自由落下 鉛直投げおろし 水平投射 力と質量 力の合成, 分解と力のつりあい 慣性の法則 力と質量と加速度の関係 運動の法則 作用・反作用の法則 運動方程式の利用(1) 運動方程式の利用(2) 	○	○	○	○
	課題 考查	1 学期の復習	夏期休業課題から出題	○	○	○	○
2 学期	中間 考查	第II章 エネルギー 第1節 仕事と力学的エネルギー 第2節 熱とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 力がする仕事 運動エネルギー 力学的エネルギー保存の法則 いろいろな運動と力学的エネルギー 温度と熱運動 熱と仕事 エネルギーの変換と保存 <p>*SDGs 12 つくる責任つかう責任</p>	○	○	○	○
	期末 考查	第III章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波	<ul style="list-style-type: none"> 波と振動 波の重ねあわせ 波の反射 音の速さと3要素 波としての音の性質 弦の固有振動 波の表し方 定常波 気柱の固有振動 	○	○	○	○
	課題 考查	2 学期の復習	冬期休業課題から出題	○	○	○	○
3 学期	学年末 考查	第IV章 電気 第1節 電荷と電流 第2節 電流と磁場	<ul style="list-style-type: none"> 電荷 物質と抵抗率 電力量と電力 磁場 交流の発生と利用 電流と電気抵抗 直流回路 電磁波 	○	○	○	○
	※	第3節 エネルギーとその利用	<ul style="list-style-type: none"> 太陽エネルギーの利用 原子力エネルギー <p>*SDGs 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	○	○	○	○

評価の観点 ①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③技能・表現 ④知識・理解

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

関心・意欲・態度	関心・意欲・態度	関心・意欲・態度	関心・意欲・態度
<p>自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、実験レポート、宿題・課題</p>	<p>自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、実験レポート、宿題・課題</p>	<p>自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、実験レポート、宿題・課題</p>	<p>自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、実験レポート、宿題・課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

<p>【授業態度の評価】 補足 授業内容に則した積極的な質問・発表等は、評価の対象とします。</p> <p>【ノート・プリントの書き方】 授業のたびにしっかり書き、常に整理しておきましょう。提出の直前にまとめ書きするようなことは絶対にしてはいけません。</p> <p>板書事項を写すだけでなく、自分で考えたり感じたりしたこと、疑問に思ったことなどについてのメモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり、質問したりすることで、より確かな知識となります。</p> <p>【実験について】 実験については実験室で行います。実験をするときには事前に連絡をしますので、休み時間のうちに教室移動をし、指定された座席につき準備してください。</p> <p>実験レポート、宿題・課題などの提出物は必ず指定された期日を守り、指定された様式で提出してください。</p> <p>【勉強の進め方】 日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解し、不足であれば先生に聞いて下さい。例題など自分で解いてみて、確認しましょう。</p> <p>問題集の該当箇所の問題も自分で解けるように学習を進めてください。もし分からないところがあれば、友達に聞いたり、先生に質問したりしてください。</p> <p>【成績の出し方】 ① 考查点 80 点（中間と期末） + ② 平常点 20 点（課題考査・出席・課題提出・授業態度など）</p>
--